

# 農業技術センター普及指導部作物関係情報

## タイトル：水稻の生育状況（8月25日現在）について

発信日：平成26年8月27日

### 1 内容

- ・ 気温は8月2半旬以降、平年並みからやや高い傾向で推移している。日照時間は8月2～3半旬は平年を下回ったが、4半旬以降は概ね平年並みで推移している。降水量は台風11号の通過により8月2半旬が平年より多かったが、少雨傾向となっている。
- ・ 出穂期は、「キヌヒカリ」で平年より1～3日、「さとじまん」で平年より1日程度早くなった。
- ・ 「キヌヒカリ」を中心に、内穎褐変病等による粃の褐変が目立っており、不稔やしいな、着色粒（茶米）の発生が予想され、収量、品質の低下が懸念される。
- ・ 出穂後、高温傾向で推移していることから、胴割粒のほか、白未熟粒（乳白粒・心白粒・背白粒等）の発生に注意が必要である。

### 2 留意事項

今後の水稻の技術指導においては、次の点に留意して実施する。

- (1) 気象庁が8月21日に発表した1か月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温はほぼ平年並み、日照時間は平年並みか少ない見込みである。
- (2) 8月10日の台風11号通過時に出穂前後となっていた作期の水田では、内穎褐変病や褐変症による粃の褐変が非常に多くなっている。  
褐変粃は、不稔やしいな、着色粒（茶米）になることが多い。品質に及ぼす影響をできるだけ抑えるため、本年は、選別作業を玄米の流量を少なくして丁寧に実施し、障害粒を確実に取り除くことが必要である。
- (3) 登熟期間（出穂期～成熟期）の高温は、白未熟粒（乳白粒・心白粒・背白粒等）や未熟粒の発生を助長する。また、登熟初期（出穂後10日間）の高温は、胴割粒の発生の一因となる。本年は、登熟期間が高温で経過しているため注意が必要である。
- (4) 落水時期は、出穂後30日以後とし、早期の落水はしない。出穂後30日間は玄米に養分が蓄積し、肥大する期間であり、早期落水は玄米の充実を妨げ、未熟粒や胴割粒等の障害粒の発生を助長するので、落水は極力遅くする。  
湿田等の排水不良の水田では、出穂後30日間は「ひたひた水」程度の状態を保ち、田面にひび割れができないよう管理する。  
なお、高温傾向が続いているので、用水が十分に確保できる地域では、落水時期まで掛け流し灌水を行い、温度上昇を防ぐ。
- (5) 成熟期は、出穂期が平年よりやや早まったことに加え、出穂後の気温も高温傾向であることから、平年に比べやや早まると予想されるので、刈り遅れないよう注意する。  
成熟期は、出穂期以降の平均気温の積算温度に影響される。収穫適期の予測は、別表の成熟期予測を参考にする。ただし、粃の黄化歩合、粃水分、倒伏程度、作期やほ場ごとの

生育等から総合的に判断する。

特に、刈り遅れは、穂発芽や胴割粒等の発生を助長し、著しい品質低下につながるので、収穫は必ず適期に行う。また、刈り遅れや倒伏した場合は、株が抜けたり、穂が地面につくことにより小石等の異物混入の原因になるので若干高刈りとする。

(6) コンバイン、乾燥機等の機械は、事前に必ず点検、整備し、計画的な作業に努める。コンバインやバインダーは、Vベルト、掻き揚げ爪、刈り刃、足回り等を、乾燥機は掻き揚げ部等の残渣のチェックを行い、安全使用とトラブルの回避に努める。

また、収穫作業が始まる前には、毎回、機械の点検、整備を行う。

(7) 引き続き、農作業中の熱中症に十分注意するとともに、コンバイン等の農業機械を使用する機会が多くなるので、安全を最優先し、農作業事故に遭わないようにする。

(8) 台風の襲来が予測される場合は、前回（8月7日）に発信した普及指導部作物関係情報の台風対策を参考にする。

【別表】

農業技術センター（平塚市）における出穂期と成熟期予測（概ねの目安）

品種名	作期	本年の出穂期 （対平年比）	登熟日数 （平年）	登熟積算温度 （平年）	本年の成熟期予測 （対平年比）
キヌヒカリ	5月 下旬植	8月3日 （ - 3日）	38日	1,030度	9月11日 （ - 2日）
	6月 月上旬植	8月8日 （ - 1日）	40日	1,030度	9月17日 （ - 1日）
	6月 中旬植	8月13日 （ - 2日）	42日	1,100度	9月26日 （ - 1日）
さとじまん	6月 月上旬植	8月16日 （ - 1日）	43日	1,050度	9月28日 （ - 1日）
	6月 中旬植	8月19日 （ - 1日）	46日	1,100度	10月4日 （ - 2日）

（注1）平年値は、5月下旬植は平成14～18年の平均、6月上旬及び中旬植は平成16～25年の平均とした。

（注2）本年の5月下旬植の出穂期は、県が設置している生育診断ほ等により判定した。

（注3）対平年比の「 - 」は平年より「早い」ことを表す。

（注4）本年の成熟期予測は、出穂後の積算温度により推測した。

連絡先

農業技術センター普及指導部作物加工課

平塚市上吉沢1617

TEL：0463-58-0333 内線381～384

FAX：0463-58-4254